立子山中学校いじめ防止対策基本方針

I 基本方針

1 目的

生徒の教育を受ける権利を保障し、心身の健全な成長と人格の形成を図ることができるように、いじめ防止等（いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処）のための対策を総合的かつ効果的に推進することを目的とする。

2 定義

「いじめ」とは、生徒に対して、当該生徒と一定の人間関係にある他の生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行うものも含む。）であって、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

3 基本理念

- ① 生徒が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、いじめ防止対策を推進する。
- ② 全ての生徒がいじめを行わず、及びいじめを傍観することがないように、生徒理解を深めながら、いじめ防止対策を推進する。
- ③ 生徒の生命及び心身を保護するために、家庭や地域住民、関係機関との連携の下、いじめを克服することを目指して、いじめ防止対策を推進する。

4 いじめの禁止

生徒は、いじめを行ってはならない。このことをあらゆる機会に指導する。

5 本校及び本校教職員の責務

本校及び本校の教職員は、本校に在籍する生徒の保護者、地域住民、関係機関との連携を図りつつ、学校全体でいじめの防止及び早期発見に取り組むとともに、本校に在籍する生徒がいじめを受けていると思われるときは、適切かつ迅速にこれに対処しなければならない。

II いじめ防止の基本的な取り組み

1 本方針に基づき、いじめ防止対策を組織的、計画的に推進する。

- (1) 学校いじめ防止基本方針
- (2) 学校におけるいじめ防止等の対策のための組織

(3) 学校におけるいじめ防止等

- ① いじめの防止
- ② いじめの早期発見
- ③ いじめの対処
- ④ 学校における生徒指導体制
- ⑤ 家庭や地域との連携
- ⑥ 関係機関との連携

2 生徒の豊かな心と道徳心を培い、心の通う対人能力を養うために、道徳教育及び体験活動等の充実を図る。

- (1) 道徳・特別活動をとおして規範意識や集団の在り方等について学習を深める。
- (2) 生徒がいじめを自分のこととして考え、自ら活動できる集団づくりに努める。

3 生徒の保護者、地域住民、関係機関との連携を図りつつ、いじめ防止に資する活動や啓蒙等を行う。

- (1) 地域や関係機関と定期的な情報交換を行い、日常的な連携を深める。
- (2) 学校便り等をとおして、学校がいじめ防止対策への理解と協力を得る。
- (3) 保護者との日ごろの連絡や相談を密にし、保護者との信頼関係を築きながら、いじめ問題の早期発見・解決につとめる。
- (4) スクールカウンセラーを活用し、いじめの早期発見・快活に務める。
- (5) 法を犯す行為に対しては、早期に警察等に相談して協力を求める。

4 いじめを早期に発見するために、生徒に対するアンケート等の定期的な調査等を行う。

- (1) 定期の生活アンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。
- (2) 定期の教育相談や日ごろの相談、観察をとおしていじめの早期発見につとめる。

5 インターネットを通じて行われるいじめを防止し、及び効果的に対処することができるよう具体的な措置を講ずる。

- (1) インターネット問題に関する研修を実施し、情報モラルに関する指導法の充実・改善に努める。
- (2) 学校ネットパトロールを実施し、ネットいじめの早期発見・解決に努める。
- (3) 情報モラル教室等の開催により、生徒の情報モラルの向上を図る。
- (4) 学校便り、学級懇談会等の機会をとおし、保護者向けのインターネット問題に関する啓発に努める。

6 教職員に対する、いじめ防止等に関する研修等を行う。

- (1) いじめ防止に関する研修を行い、いじめ防止に関する指導力の向上を図る。
- (2) 常に危機感をもち、いじめ防止への取り組みを点検して、改善充実を図る。
- (3) 教職員の言動でいじめを誘発・助長・黙認することのないよう細心の注意を払う。

Ⅲ いじめ防止の具体的措置

1 校内にいじめ防止等の対策のための組織を置く

- (1) 名称 いじめ防止対策委員会
- (2) 構成 校長、教頭、生徒指導主事、保健主事、学級担任
スクールカウンセラー、学校評議員
- (3) 生徒指導主事をいじめ防止対策担当者とする。
- (4) 活動内容、活動計画については別に定める

2 いじめに対してつぎの措置を講じる

- (1) 通報
教職委員や保護者等が、生徒からいじめの相談を受け、いじめの事実があると思われるときは、学校に通報する。
- (2) 事実確認と報告
 - ① 学校は、通報を受けたときは、速やかに、いじめの事実確認を行い、その結果を福島市教育委員会に報告する。
 - ② いじめの事実を正しく把握できるように、いじめの事実、指導の経過等を逐次、文書で報告する。
- (3) 支援と指導等
いじめが確認された場合、いじめをやめさせ、再発を防ぐため、教職員はスクールカウンセラー等の専門家の協力を得て、次の処置を継続的に講ずる。
 - ① いじめを受けた側へ支援
 - ② いじめを行った側への指導
 - ③ その保護への助言
- (4) 教室外の授業
被害者の安心のためなどの必要がある場合は、いじめを行った生徒を教室以外の場所で学習させる等の措置をとる。
- (5) 情報の共有
 - ① 教職員がいじめに対する適切な指導・対応ができるように、いじめの情報を文書で共有する。

② いじめを受けた側と行った側の保護者に争いが起きないように、いじめの情報を共有する処置を講じる。

(6) 警察との連携

いじめが犯罪行為であると認めるときは、警察と連携して対処し、生命・身体・財産に重大な被害が生じる恐れがあるときは直ちに警察に通報し、援助を求める。

(7) 懲戒・出席停止

いじめを行った児童生徒の懲戒または出席停止の適切な運用を行う。

IV 重大事態への対処

1 重大事態の定義

- (1) 生徒の生命・心身・財産に重大な被害が生じた疑いがあるとき。
- (2) 生徒が相当の期間欠席を余儀なくされているとき。

2 重大事態への対処

- (1) 速やかにいじめ防止対策委員会による、事実を解明する調査を行う。
※ 必要があれば、いじめ防止対策委員会と別の組織を設ける。
- (2) 事実解明の調査を行ったときは、被害生徒と保護者に事実関係の情報を提供する。
- (3) 学校は、福島市教育委員会を通じて、重大事態が発生した旨を首長に報告する。

(平成 25 年 9 月 9 日作成)